

Minami Kyushu University Syllabus

| Minami Kyushu University Syllabus | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|--|---------|---------|---------|---------|--------|------|------------|-------|--|
| シラバス年度 | 2023年度 | 開講キャンパス | 開講キャンパス | 都城キャンパス | 都城キャンパス | 開設学科 | 開設学科 | 子ども教育学科 | | |
| 科目名称 | ピアノ実技 I (基礎) | | | | | | 授業形態 | 実技 | | |
| 科目コード | 750172 | 単位数 | 2単位 | 配当学年 | 1 | 実務経験教員 | | アクティブラーニング | ○ | |
| 担当教員名 | 早川 純子 | | | | | | | | ICT活用 | |
| 授業概要 | <p>この授業の目的は、子どもの音楽活動を支えるためのピアノ奏法の基礎的技術を習得することである。 読譜や指使い、デュナーミク(強弱法)、身体の使い方などの基本的事項を身につけ、ピアノ表現技術を向上させる。初心者、既習者ともに『ピアノテキスト』掲載のバイエルと中心とした実技課題から始め、習熟度に応じてブルグミュラーやソナチネ等の音楽作品に触れ、音楽性を高める。</p> | | | | | | | | | |
| 関連する科目 | 事前に「音楽」を受講し、楽典やソルフェージュの学習によって、楽譜の読み方を把握し視唱・視奏などの実践できていることが望ましい。 | | | | | | | | | |
| 授業の方法と進め方 | 受講者は、各レッスン室で個人指導を受け、順番を待つ間は音楽室の電子ピアノで自主練習を行う。*マンツーマンの個人レッスンという形で受講者の習熟度に合わせて指導を行う。そのため、各自で進度が異なる。 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第1回】 | 導入(オリエンテーション) レッスンの進め方や目標設定 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第2回】 | 5指の基本練習 練習の基本的な方法や効果的な練習法 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第3回】 | 和音奏の練習 和音の構成音を覚える | | | | | | | | | |
| 授業計画【第4回】 | 付点リズムの練習 基本的な付点リズムのリズムパターンを習得する | | | | | | | | | |
| 授業計画【第5回】 | 各種拍子の練習 様々なリズムパターンの練習 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第6回】 | 全音符から16分音符までの練習 正確かつスムーズに運指できるようになる | | | | | | | | | |
| 授業計画【第7回】 | ハ長調の練習 白鍵盤の音符で構成され比較的演奏しやすい調の一つであるハ長調の練習を通して基礎的な音楽理論やテクニックを習得する | | | | | | | | | |
| 授業計画【第8回】 | ト長調の練習 比較的演奏しやすい調の一つであるト長調の練習を通して、演奏技術や音感の向上を図る | | | | | | | | | |
| 授業計画【第9回】 | ヘ長調の練習 比較的演奏しやすい調の一つであるヘ長調の練習を通して、演奏技術や音感の向上を図る | | | | | | | | | |
| 授業計画【第10回】 | 二長調の練習 調号が2つある二長調の練習を通して、演奏技術や音感の向上とともにレパートリーの拡充を目指す | | | | | | | | | |
| 授業計画【第11回】 | イ短調の練習 悲しげな印象を与える調である短調の中で、比較的取り組みやすいイ短調の曲を演奏することで、音楽表現の幅をさらに広げる | | | | | | | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業計画 【第12回】 | 試験曲の練習① 実技試験に向けた練習方法や効果的な練習の仕方などを学ぶ |
| 授業計画 【第13回】 | 試験曲の練習② 楽譜の読み方や理解力を高めることで、より正確で美しい演奏を目指す |
| 授業計画 【第14回】 | 試験曲の練習③ 試験曲を通して、その曲が持つ歴史的・文化的背景や作者の意図を理解し、より深い表現力を追求する |
| 授業計画 【第15回】 | 試験リハーサル 試験曲の演奏に必要な様々な要素を習得し、より高度な演奏技術と表現力を身につける |
| 授業の到達目標 | 1. ピアノ奏法の基礎を身につける。 2. 簡易伴奏に用いる基礎的な和声理論を習得し、主要三和音のコード奏に慣れる。 * 授業での十分な実践と自主練習を通し、着実かつ確実に習得する。 |
| 学位授与の方針 (DP)との関連 | 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) |
| 授業時間外の学習 【予習】 | ピアノレッスンは、十分な自主練習(予習)を行って臨んでいることが前提となる。日々の練習の積み重ねが、上達の鍵となる。わずかな時間でも日々ピアノに向き合い、練習に努めること。(合計2時間半程度：1日20～30分) |
| 授業時間外の学習 【復習】 | レッスン後、速やかに自主練習を行い、レッスンで指摘された部分については特に重点的に練習し改善を図る。次のレッスンまで、時間を見つけてコツコツと自主練習に励むこと。(予習も兼ねて合計2時間半程度：1日20～30分) |
| 課題に対する フィードバック | マンツーマンの個人レッスンを通して、個人のレベルやニーズに応じた指導を行います。 |
| 評価方法・基準 | 受講態度：40%、自主練習の有無：30%、実技試験：30% |
| テキスト | 全国大学音楽教育学会 九州地区学会 編 『ピアノテキスト』 (カワイ出版) |
| 参考書 | 『全訳バイエルピアノ教則本』(全音楽譜出版社) |
| 備考 | 授業時間は「2時間」で、開始および終了時にはレッスン室に集合し担当教員の指示を受ける。 複数の専門教員が担当します。 |